

2015年8月3日掲載

口の周囲の外傷

受傷後 30 分以内に処置を

口の周囲のケガには、歯が折れていたり抜けていたり、唇や歯肉が切れているなど、見て分かる場合のほかに、歯槽骨（歯と歯肉を支える骨）やあごの骨の骨折など、目で見えない場合もありますので注意が必要です。

口の周囲をけがしたときの応急の対応は次の通りです。

歯肉や口の周囲から出血している、歯がぐらぐらしている場合は、口の中が切れていたり、歯の根が折れたり、歯の位置がずれていることが考えられます。歯が欠けた場合、欠けた部分が大きいと神経（歯髄）まで達していることが多く、放置すると痛みが出たり、神経が死んでしまいます。早急な歯科受診が必要です。

歯が抜けてしまった場合は、条件が良ければ歯を元の位置に植え直すことができます。抜けた歯を専用の保存液か牛乳につけるか、保存液がない場合は、飲み込まないように注意して口（唾液中）に含み、できるだけ早く歯科を受診します。できれば受傷後 30 分以内に処置することが望ましいとされています。

歯や顔面をぶつけた後、頭痛や吐き気、めまい、嘔吐^{おうと}などがみられる場合は、意識状態や反応を確認し、歯科受診の前に脳外科など専門診療科を受診してください。

口の周囲の外傷では、早めの対応が治療の予後に影響するため、痛みなどの症状がない場合でも、適切な対応が必要です。